

基本政策 I 人間としての在り方生き方の軸をつくる

政策 目標

「キャリア在り方生き方教育」を全ての学校で計画的に推進し、全ての子どもに、社会で自立して生きていくための資質・能力や態度とともに、共生・協働の精神を育みます。

主な課題

○社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程であるキャリア発達を促すため、**各学校の実情に応じて、全ての市立学校で「キャリア在り方生き方教育」を推進しており、引き続き子どもたちに社会的自立に向けて必要な能力や態度とともに、共生・協働の精神を計画的・系統的に育てる教育**が求められています。

主な取組成果

- 「**キャリア・進路指導担当者研修会**」を年間3回、訪問研修等を135回実施しました。また、「**キャリア在り方生き方ノート**」に、新しく「**市制100周年**」「**SDGs**」「**かわさきパラムーブメント**」に関するページを追加するとともに、「**キャリア・パスポート**」と合わせて、活用に関する教職員の理解を深めました。

教育改革推進会議における意見内容

- ChatGPTに代表される生成AI等が今後教育の現場に活用されると考えたときに、「在り方生き方」という部分はとても大切な指摘をしているのではないかと思っている。また、これを踏まえたキャリア教育の継続的な見直しが必要である。
- 社会参画に関する意識が昨年度に比べ中学生で減少しており、諸外国に比べても深刻な低さと思われる。**
- 小学生の時期で大事なものは、自分がやりたいことを様々な経験や遊びを通して想像していくことであり、知識を多く身に付けるよりももっと意味と価値があるはずだ。それが「**キャリア在り方生き方**」だと考える。
- 「**キャリアパスポート**」に今日の出来事や設定した目標の振り返りを書くことによって、子どもたち自身で行ってきたことへの価値付けができ、自分の中に消化されたものが積み重なってきていると感じる。
- 「**キャリア在り方生き方教育**」の取組の中で、「**市制100周年**」に向けて子どもたちからこの学校で今何ができるか、こんな学校をつくりたい、といった気持ちが育ってきていると考える。
- 「**キャリア在り方生き方教育**」では、自分が将来何になりたいかを考えるだけでなく、自分の近い将来、遠い将来を想像することによって、今の自分を知ることができる。また、他人の意見や経験談を聞き体験することによって、自分の将来におけるイメージを更に膨らませることができている。**子どもたちが、今の自分を知り存在価値を確認することによって自己肯定感を高めることにもつながっている。**

今後の取組の方向性

- 「**キャリア在り方生き方ノート**」や「**キャリア・パスポート**」について、具体的な取組を発信し、**更なる有効活用**の促進に取り組みます。

参考指標

指標名	指標の説明		実績値	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	目標値(R7年度)
自己肯定感	「自分にはよいところがあると思う、どちらかといえばそう思う」と回答した児童生徒の割合 【出典:全国学力・学習状況調査】	小6	79.1% (R3(2021)年度)	81.7%	-	-	-	83.0% 以上
		中3	76.4% (R3年度)					
将来に関する意識	将来の夢や目標を持っている、どちらかといえば持っている」と回答した児童生徒の割合 【出典:全国学力・学習状況調査】	小6	77.3% (R3年度)	77.7%	-	-	-	90.0% 以上
		中3	65.2% (R3年度)					
自己有用感	「人の役に立つ人間になりたいと思う、どちらかといえば思う」と回答した児童生徒の割合 【出典:全国学力・学習状況調査】	小6	96.0% (R3年度)	95.7%	-	-	-	97.0% 以上
		中3	94.6% (R3年度)					
チャレンジ精神	「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している、どちらかといえば挑戦している」と回答した児童生徒の割合 【出典:全国学力・学習状況調査】	小6	73.0% (R3年度)	74.7%	-	-	-	82.0% 以上
		中3	66.0% (R3年度)					
チャレンジ精神 【第3期から設定】	「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している、どちらかといえば挑戦している」と回答した児童生徒の割合 【出典:川崎市学習状況調査】	小5	— —	78.5%	-	-	-	82.0% 以上
		中2	— —					
共生・協働の精神	「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある、どちらかといえばある」と回答した児童生徒の割合 【出典:全国学力・学習状況調査】	小6	— —	—	-	-	-	— ※
		中3	— —					
社会参画に関する意識	「地域や社会をよりよくするために何をすべきか考えることがある、どちらかといえばある」と回答した児童生徒の割合 【出典:全国学力・学習状況調査】	小6	54.2% (R3年度)	55.6%	-	-	-	56.0% 以上
		中3	39.5% (R3年度)					

※参考指標「共生・協働の精神」は、出典元の調査において設問がなくなったため記載はありません。